

6 保育園で働くナースのためのやんばる研究会

第1回

申請者氏名（代表者） 松下聖子	所属部門	人間健康学部看護学科 小児看護学領域		
企画名：第1回 保育園で働くナースのためのやんばる研究会				
<p>企画の目的・概要（企画の目的と概要を正確かつ簡潔に説明して下さい。）</p> <p>病児・病後児や障害のある子どもたち、慢性疾患やアレルギーのある子どもが、在宅で生活するためには、保育園看護師の配置と個々の子どもにあった健康支援が重要となります。そこで、病児・病後児や障害のある子どもや慢性疾患やアレルギーのある子どもの保育に関する保育園看護師が、抱えている悩みや体験などの情報交換を行います。そして、子どものQOL向上に果たす役割、さらに保育看護を実践するためのシステム作りと保育園看護師のサポートネットワークづくりを目的にしています。</p>				
企画実施組織（代表者、分担者及び協力者）： 小児看護学領域				
氏名	所属・職名	現在の専門	役割分担	備考
金城やす子	看護学科・教授	小児看護学	担当講師	
松下聖子	看護学科・准教授			
八田早恵子	看護学科・助手			
企画実施報告(参加人数等を明記)				
実施日：平成25年9月7日(土)15:30~17:00				
参加人数：保育士及び看護師：13名・大学教員：3名・看護実践教育研究センター：1名				
企画の実施評価(ケアの質の向上、または大学および地域の貢献)				
<p>研究会内容</p> <p>1. 開会の挨拶 会の主旨説明</p> <p>2. 講話1：「保育園で働くナースについて」・講話2：「感染症とアレルギーについて」</p> <p>3. 保育園ごとの情報交換：手洗いの方法 アレルギー除去食の問題 等</p>				
今後の取組み(本企画について、今後どのように発展するかを具体的に記入してください。)				
<p>【参加者の感想】</p> <p>*とても勉強になりました。気になっていた消毒のこと、感染症のことが分かったのでとても有意義な時間でした。次回も是非参加したいです。このような機会をつくっていただきありがとうございました。</p> <p>*抗菌のことなど細かいところまで聞けて、とても良い研修会だと思いました。現場の生の声が出せて本当に良かったです。名桜大学の先生方の実習生もお世話になっているからという子供たちを思う気持ちもとても素敵だと思いました。本当にありがとうございました。</p> <p>*情報交換ができて良かったです。勉強になりました。ありがとうございました。</p> <p>*各園の気になる事情が聞けて勉強になりました。ありがとうございました。</p> <p>【要望】“気になる子について”の勉強会も取り入れてほしい。 次回開催日：10月17日</p>				

第2回

申請者氏名（代表者） 松下聖子	所属部門	人間健康学部看護学科 小児看護学領域		
企画名：第2回 保育園で働くナースのためのやんばる研究会				
<p>企画の目的・概要（企画の目的と概要を正確かつ簡潔に説明して下さい。）</p> <p>病児・病後児や障害のある子どもたちや慢性疾患やアレルギーのある子どもが、在宅で生活するためには、保育園看護師の配置と個々の子どもにあった健康支援が重要となります。そこで、病児・病後児や障害のある子どもや慢性疾患やアレルギーのある子どもの保育に関与する保育園看護師が、抱えている悩みや体験などの情報交換を行います。そして、子どものQOL向上に果たす役割、さらに保育看護を実践するためのシステム作りと保育園看護師のサポートネットワークづくりを目的にしています。</p>				
企画実施組織（代表者、分担者及び協力者）：小児看護学領域				
氏名	所属・職名	現在の専門	役割分担	備考
金城やす子	看護学科・教授	小児看護学	担当講師	
松下聖子	看護学科・准教授			
八田早恵子	看護学科・助手			
企画実施報告(参加人数等を明記)				
<p>実施日：平成25年10月17日(木)15:30~17:00</p> <p>北部地域保育園看護師：7名・大学教員：3名・名護市こども家庭部 就学前教育専門指導員：1名</p>				
企画の実施評価(ケアの質の向上、または大学および地域の貢献)				
<p>研究会の内容</p> <p>1. 講話（担当：松下聖子） 15:30~16:30 「アナフィラキシーショックへの対応としてのエピペンの使用方法について」 使用目的や方法、実際の使用事例について</p> <p>2. 「発達が気になる子どもへの対応」 南部地域で実施した調査結果を説明し、各園での取り組みをまじえて説明した。</p> <p>3. 名護市及び宜野座村、本部町の取り組みについて情報交換 16:30~17:00</p>				
今後の取組み(本企画について、今後どのように発展するかを具体的に記入してください。)				
<p>【参加者の感想】</p> <p>*宜野座村ケースなど大変勉強になりました。家とは全く違う過酷な環境で過ごす毎日が1人1人の子どもにとって幸せな時間となるように頑張ります。</p> <p>*初めて参加してとても良かったです。保育園での看護師という役割があまり確立してなくて毎日手探りで仕事に携わっている現状なので、このような機会はとても心強いし、知識の共有もできて良いと思います。どんどん学んで保育園での看護師の仕事の確立と良い保育園の保健環境を作っていけたらよいと思いますので宜しくお願いします。【要望】*感染対策や看護業務等について、アレルギー対策・誤飲対策など 次回開催日：11月28日、宜野座村の発達障害児への取り組みに関する事例報告とディスカッション</p>				

第3回

申請者氏名（代表者） 松下聖子		所属部門	人間健康学部看護学科 小児看護学領域		
企画名 第3回 保育園で働くナースのためのやんばる研究会					
企画の目的・概要（企画の目的と概要を正確かつ簡潔に説明して下さい。） 病児・病後児や障害のある子どもたちや慢性疾患やアレルギーのある子どもが、在宅で生活するためには、保育所看護師の配置と個々の子どもにあった健康支援が重要となる。そこで、病児・病後児や障害のある子どもや慢性疾患やアレルギーのある子どもの保育に関与する保育所看護師の実態を明らかにし、子どものQOL向上に果たす役割、さらに保育看護を実践するためのシステム作りと保育園看護師のサポートネットワークの構築を目的とする。					
企画実施組織（代表者、分担者及び協力者）					
氏名	所属・職名	現在の専門	役割分担	備考	
金城やす子	看護学科・教授	小児看護学			
松下聖子	看護学科・准教授	小児看護学			
八田早恵子	看護学科・助手	小児看護学			
企画実施報告(参加人数等を明記)					
実施日：平成25年11月28日(木) 15:30~17:00 保育士および看護師：7名・名護市子育て支援員：1名・大学教員：3名					
企画の実施評価(ケアの質の向上、または大学および地域の貢献)					
研修内容 1. 事例検討（宜野座村立保育園・かんな保育園） 2. 講演会およびシンポジウムの案内					
今後の取組み(本企画について、今後どのように発展するかを具体的に記入してください。)					
<p>【参加者の感想】</p> <p>*初めての参加でしたが、事例を聞きたくさんの意見が聞けて勉強になりました。また、参加していきたい。</p> <p>*他園での気になる子への取り組みが知れて良かったです。</p> <p>*名護から参加しているメンバーのケースも発表してほしい。</p> <p>*保育園での手洗い、うがい等をしっかりできるようにしたい。</p> <p>【要望】</p> <p>*感染症の対策(具体的な例)</p> <p>*食物アレルギー対策(保育園での対応)について</p> <p>次回は、2014年2月1日(土) 10:30~12:00</p> <p>第1回講演会東日本大震災から学ぶ～放射線の被害から子どもを守るために～</p>					



写真：やんばる研究会の様子

6 保育園で働くナースのためのやんばる研究会

保育園で働くナースのためのやんばる研究会 第1回講演会

申請者氏名（代表者） 松下聖子	所属部門	人間健康学部看護学科 小児看護学領域		
企画名 保育園で働くナースのためのやんばる研究会 第1回講演会 ～東日本大震災から学ぶ～放射線の被害から子どもを守るために～				
企画の目的・概要（企画の目的と概要を正確かつ簡潔に説明して下さい。） 2011年3月11日、東日本を襲った地震や津波では、多くの方が犠牲になりました。そして、原発問題は、これまでの災害対応では対処できない問題を浮き彫りにしました。子どもにとっても、放射線による身体への影響や遊ぶこと・食えることなど生活への影響、放射線に対して過剰に反応してしまう大人たちなど、子どもが子どもらしく生活するうえで様々な課題を抱えています。今回、子どもへの放射線の影響やその対応について、長崎大学原爆後障害医療研究所の高村昇先生にご講演をしていただきます。臨床や研究、東日本大震災における支援活動の経験を踏まえたお話から、たくさんの示唆をいただける機会になると思います。				
企画実施組織（代表者、分担者及び協力者） 小児看護学領域				
氏名	所属・職名	現在の専門	役割分担	備考
金城やす子	看護学科・教授	小児看護学		
松下聖子	看護学科・准教授			
八田早恵子	看護学科・助手			
企画実施報告(参加人数等を明記)				
実施日：平成26年2月1日（土）10:30～12:30 保育園関係者3名 大学からの参加者13名 県外大学教員1名 行政1名 その他2名 合計23名参加				
企画の実施評価(ケアの質の向上、または大学および地域の貢献)				
講演会の内容 10：00 - 受付開始 10：30 - 10：35 学部長挨拶 10：35 - 10：40 高村先生のご紹介 10：40 - 11：50 講演 11：50 - 12：00 質疑応答 12：00 - 12：05 終わりの挨拶				
今後の取組み(本企画について、今後どのように発展するかを具体的に記入してください。)				
別添アンケート結果を参照				

講演会に関するアンケート

【参加者23名／アンケート回答者11名】

1. 講演会参加の理由について（複数回答）

①講演会のテーマに興味があった（11名）、②上司にすすめられた（2名）

2. 参加者の職種について

①保育園保育士（2名）、②行政関係者（2名）、③学生（3名）、④看護系教員（2名）、
⑤その他（2名）

3. 本日の講演会にどのくらい満足しましたか、あてはまるものに○を付けてください。

①大変満足（9名）、②ほぼ満足（1名）、③ふつう（0名）、
④あまり満足しなかった（0名）、⑤満足しなかった（0名）

4. 本日の講演会の感想をお書きください。

- ・とても学びになった。
- ・わかりやすい講演で大変満足しています。機会があれば企画をお願いします。
- ・放射線の知識がほとんどなく、今回は知ることができ感謝いたします。放射線のことに限らず、色々な正しい情報などを知り学んでいくことが重要だという事がとてもわかりました。ありがとうございました。
- ・福島＝チェルノブイリというイメージがあったので、私も過剰に恐れていました。線量の違いが分かり漠然とした不安が消えました。
- ・非常に分かりやすく勉強になりました。
- ・正しい知識を持つことの大切さ、復興支援に関しても自分のできることがあることを知れて為になりました。
- ・沖縄でも正しい知識を普及する必要があると思いました。正しい知識を持つことが復興支援にもつながると再認識しました。
- ・実際に福島に住んでいても正しい知識を得る事ができないのだと思いました。自分も復興に関して何かできることを考えていきたい。
- ・数字の意味を正しく理解していくことが大切だとわかりました。ありがとうございました。
- ・放射線という目に見えないものとの格闘～今後の対策について理解しました。

（回答人数 11 人中 10 人）



写真：第1回講演会 東日本大震災から学ぶ～放射線の被害から子どもを守るために～

講演会当日に使用した配布資料の一部

福島県における復興の現状



長崎大学・川内村復興推進拠点保健師による放射線に関する健康相談・戸別訪問



福島県川内村における復興支援



現在、長崎大学の保健師(折田真紀子、放射線医療科学専攻大学院生)が川内村に常駐し、土壌や食物、作物などの放射性物質測定、それらの結果をもとにした個別の健康相談、線量計の正しい使用法の説明、さらには村役場が行っている住民説明会においては専門家として住民からの放射線被ばくと健康影響に関する疑問に対応している。

